

すもう せかい お相撲さんの世界

どんな 職業 にも大変な面とおもしろい面がある。相撲取りの世界もこの二面性がある点は同じだ。

まず部屋という組織に入門する。入門してしばらくの間は、朝から晩まで同じ部屋の人と同じ所で寝食を共にする。新人の弟子たちに与えられる仕事は多い。毎朝4時半に起き、朝食は食わずに朝げいこをする。冬の寒いときでも裸ではだし。砂だらけ傷だらけになって頑張る。それが終わるのが11時。その後ふろ場で兄弟子たちの背中を流す。ふろに入るのは一番最後。食事当番は食事を作る。食器などの後片付けの後、兄弟子たちが昼寝をしている間に掃除や洗濯。それが終わった後で、夕方まで昼寝をするのだが、これは体を休めない、太れないからだ。当番は夕食も作らなければならない。再び後片付けをしてようやく眠りにつく。朝が来るたびに、同じことを繰り返す。

食べる量もすごい。肉類・魚介類・豆腐・野菜類などを大量にいた「ちゃんこ」と呼ばれる料理をたっぷり食べる。それに加え、体重が少ない新入力士は寝る前に最低お茶漬け2杯とバナナ10本は食べるように言われる。新人の中には泣きながら食べる力士もいる。

しかし、強^{つよ}くなってくると、相撲^{すもう}がおもしろくなる。おもしろいからさら
にけいこ^{かさ}を重ねる。するともっと勝^かてるようになり、勝^かてば、番付^{ばんづけ}があがる。
番付^{ばんづけ}があがれば、給料^あも上がり、勝^かったとき賞金^{しょうきん}がもらえるようになり、
頑張^{がんば}ったことがはっきり形^{かたち}になって表^{あらわ}れてくる。だからおもしろい。